



用燕骨

石捨董雜

集志箱全

全全



用燕骨

后  
捨董  
雜

箱志集

全全全

(岡山製本)

大正四年八月廿五日印刷有朋堂文庫  
(非賣品)  
大正四年八月廿八日發行

雜骨董集用捨石箱

編輯兼發行者三浦理

東京市神田區錦町一丁目十九番地

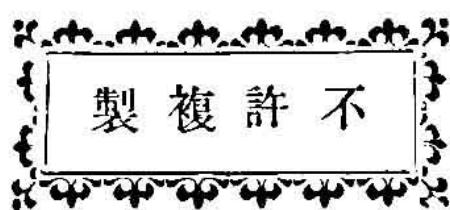
印刷者平井登

東京市本所區疊場町四番地

印刷所凸版印刷株式會社分工場

東京市本所區疊場町四番地

發行所有朋堂書店



## 緒　言

徳川時代の小説家として有名なる京傳・馬琴・種彦三家の隨筆各一種を收録して本書一巻と爲す。

骨董集は山東京傳の述作に係る。今其木版本として世に流布する上巻のみを採録せり。蓋し中下の二編は腹案又は草稿のみにて未だ世に公にするに至らずして止みたるものなるべし。燕石雜志は曲亭馬琴の作、用捨箱は柳亭種彦の著也。三種共に三家の小説家としての用意、學者としての造詣を窺ふべき恰好の書にして、其考證の讀者を利するもの尠少にあらざるを見る。三書共に流布の木版本を以て底本とし、語格、假名遣、充字等、概ね原文のまゝにして敢て改竄を加へず、插畫の如きも悉く寫眞製版として覆刻する事とせり。本書の校訂と校正とは専ら石井晴信氏を煩したり。記して其勞を謝す。

大正四年八月

校訂者　塚　本　哲　三

緒

言

# 日 錄

## 骨董集

### 上編上之卷

好事の心得	五
昔の威儀附紺屋の白袴	六
竹馬	七
昔人の質朴	八
蝙蝠羽織圖	三
胄人形	四
舊吉原の雨中のさま	六
毬男	三
魚を呼びて斗々といふ	三
粉の看板	三
豆腐の紅葉	三
ころばすといふ下踏	三

### 上編中之卷

名古屋帶

江戸の錢湯風呂の始 ..... 三  
風呂犢鼻禪 ..... 三

行水船・居風呂船 ..... 三  
石榴風呂附鏡磨 ..... 三

伊勢の風呂吹 ..... 三  
金龍山米饅頭 ..... 三

目黒の餅花 ..... 三  
耳の垢取 ..... 三

臘脂繪賣 ..... 三  
釜磨并猫の蚤取 ..... 三

おばこといふことば ..... 三  
駒形の蟹 ..... 三

浮世袋 ..... 三  
初雪の句 ..... 三

火燐并地火爐再考追加 ..... 三

呉哭 ..... 三

四七

四八

四九

五〇

五一

火燐	一	四
かばやき・おかべ	一	七
挑灯	一	六
行燈	一	六
笠の下に布を垂	一	六
女の編笠塗笠	一	八
桔梗笠	一	八
浮世袋再考	一	八
魚板の古製	一	九
大津繪の佛像	一	九
淺葱椀	一	九
重箱・硯蓋	一	九
二足三文	一	十
三線鼓弓の古製	一	十
紫革足袋	一	十一
丸づくしの文様	一	十五
題目踊圖・蒔繪香合	一	十九

祖父祖母之物語	一一〇
持游無木	一一一
打出小槌・猿蟹合戦	一二二
ちまき馬・きうり牛	一二五
奈良の庭竈	一四四
長崎柱餅并幸木	一七一
宗祇の蚊帳	一七七
雛の假名の事	二七七
上編下之卷 前	
毬杖	二九〇
ぶりく	二九九
羽子板	三〇〇
粥の木・粥杖・祝木・ほいたけ棒	三〇六
お乳母日傘といふ諺	三一五
ひふなの名義・ひいなの假名	三一五
雛遊のはじめ	三一五
雛社・雛合	三一五

源氏物語の雛遊

上編下之卷 後

勧進比丘尼繪解

八

端午の茅巻馬

八

端午の頭巾・袈裟・小人形

八

後妻打古圖考

八

於國歌舞妓古圖考

九

糸縷といへるさるがう

九

酸醬を吹きならす事

一〇六

小兒をあやすにバアといふこと

一〇七

比比丘女

一〇七

編笠を切ぬきたる古圖

一一一

かくれあそび

一一二

目なしどち軒の雀

一二三

目比

一二四

宿世焼

一二五

見世棚

一二六

蟲のたれ絹

一二七

古書どもに見えし雛遊くさぐ	一毛
雛の調度	一毛
ひいな衣	一毛
古製雛圖	一毛
古製雛又一種	一毛
室町家の比の雛圖	一毛
伊勢の小米雛	一毛
三月三日の雛遊	一毛
唐國の鏤人	一毛
雛繪櫃	一毛
享保の比の土雛圖	一毛
雛使圖	一毛
雛枕・折敷圖	一毛
後の雛	一毛
姫瓜の雛	一毛
ひいな草	一毛

蟲のたれ絹の古圖	二十四
輪鼓	二三
子日の雛遊・贋物の比比奈	二七
海老上蘿	二六
腰鼓兄弟	三二
おかべ・豆腐田樂・豆腐上物	三一
菖蒲冑再考	三一
板風呂・湯錢・風呂屋	三一
提燈再考	三一
行燈再考	三一
ぎよなうのちやうちんの再考	三五
古畫行灯・挑灯	三七
胡鬼板・胡鬼子・毬杖再考	三八
手鞠	三八
天和貞享の頃の雛人形	三四
信濃羽子板	三五
蟲のたれ絹の追考	三六

## 燕石雜志

## 卷之一

打出小槌追考	二四六
追加姫瓜節供・髮葛子節供	二七
日の神	二五
更の鐘	二五
正五九月	二七
丙午附十二獸	二七
奴婢の子	二七
關雲長附漢壽亭侯印	二九
早馗大臣	二八
五噫歌	二八
恠刀禰附九尾	二八
物の名	二九
檀那附白人	三〇七
苗字	三〇九

卷之二

古歌の訛	三三
人口膾炙の歌	三七
時代不同の歌合	三八
逃水	三九
一二の橋	三一
房錢	三二
夕立	三三
匂の花附折端	三五
狂歌附大人先生	三四
詩歌吉凶附五穀多寡	三二
鬼神論	三一
卷之三	三〇
鬼神餘論	三五
蟬丸附關雷	三七
惡禪師	三九
正儀義隆	三九

八幡太郎

淺草の事實	三八
地名の訛謬	四〇
四時代謝	四一
わがなる町	四二
すゞき附長條	四三
字體附俗字解	四四
關東方言	四五
團頭	四六
藪入	四七
猴蟹合戰	四八
桃太郎	四九
舌切雀	五〇
花咲翁	五一
兎大手柄	五九
獮猴の生贍	五九

浦島之子 ..... 五六  
 卷之五 上冊

俗咒方	吾三
田之恠	吾七
奇異	吾十
縣神子	吾十四
塞翁馬	吾十五
相撲取黒船	吾十九
西鶴 <small>附羽川珍重</small>	吾九
實語教	吾六
我來也	吾七
天祿獸	吾一
伊豆の海	吾四
卷之五	吾七
六郷橋	吾八
情死	吾九
西江月附	吾三

陽陰之數	五四
鐘聲追考	六〇三
關羽印の追考	六〇六
十二獸追考	六〇七
苗字或問	六二三
俗字或問	六二五
風俗或問	六二七
守屋義貞	六二九
ながばより	六三
忘れがたみの上	六三五
忘れがたみの下	六三八
斬	六三九
正五九月辨補	六四〇
嶋子考或問	六四三
鬼神或問	六四六
白波	六四七
名詮自性	六四九

伯夷叔齊	六三四
螢梟	六四
造化の功	六五
引用目録	六五

春秋之繪櫃	六五六
捨てゝあるといふ小歌	七二
米饅頭の名義	七二
六方詞	七〇六

### 中之卷

候べくし  
七二七

高燈籠  
七二九

禿の菖蒲打  
七三一

紙帳賣・紙子賣  
七三三

金銀を伽羅といふ隱語  
七三五

荷ひ風呂  
七三九

椿頬燕脂  
七四〇

涙法師・かな法師  
七四三

掃除坊  
七四四

とちめん坊  
七四五

やんちや坊  
七五六

とられん坊  
七五七

上之卷	
草紙の讀初	六五
ちいちや・もちやの童謡	六五
餅屋の看板	六六
しり暗い觀音	六七
鍋取・杓子之古製	六七
六郷・酒匂之土橋	六七
昔の祭禮	六八
粥の木・折かけ燈籠	六八
お事始	六九
伊豆山の榔	六九

七色袖	七四
誰袖・花袋	七四
土手節・加賀節	七五
質屋の看板	七五
鎮鯨屋の金魚	七九
物を賞して伽羅といふ	七九
師走坊主	七九
下之卷	
ぐりはま・芋の山	七五
淨瑠璃本刊行の初	七六
奥淨瑠璃	七四
蚊帳に香袋を掛く	七六
枕簾筍	七六
夢想枕・夢想流の髪	七八
瀧井山三郎	七八
八人座頭	七八
錢獨樂流行	七八

俳諧の句を狂歌と誤る	七九
下帶を手綱といふ	七九
別當といふ俗語	八〇
太郎次郎	八二
天が紅・尼が紅粉	八〇
温飴の看板	八〇
大女房阿興米	八一
<small>附甫春</small>	
袖頭巾	八二
追考二條	八三
	八六

醒々老人積年所著小說九百。不讓虞初。世態情竇無所不通。稗史野乘無所不窺。若夫椎輪大輅。質不勝文。名物混淆。觚哉不觚。老人有感於此。參伍今昨。指擿誣僞。著爲一書。名骨董集。鄉儒先生或嘲之云。此瑣々者。何足以辨矣。吁。大舜好察邇言。孔聖數誦童謡。孟子知齊東野語。班氏稱街談巷議。後世如田叔禾委巷叢談。胡元瑞莊嶽委譚。皆是物也。骨董々々。非何氏樓下物也。必矣。比彼不知而作之者。移的就箭。掩耳盜鈴。則大有逕庭矣。余與老人同一癖。不得不下爲之一解嘲也。文化癸酉冬日。杏園主人書于縉帷之林下。

骨董集

# 骨董集 上編前帙 目錄

## 上之卷

好事之心得

〔二〕

竹馬

〔三〕

蝠翼

〔五〕

舊吉原

〔一〕

豆腐

〔九〕

魚肉

〔七〕

錢湯

〔十一〕

豆腐

〔三〕

行水

〔十三〕

黑風船

〔十五〕

繪餅

〔十九〕

脂賣花

〔廿一〕

おばこといふ言

〔二十三〕

昔威儀

〔二〕

昔人之質朴

〔四〕

胄人形

〔六〕

毬男

〔八〕

粉之看板

〔十〕

ころばすといふ下踏

〔十一〕

風呂櫃鼻禪

〔十四〕

石榴風呂鏡磨

〔十六〕

石金龍山米饅頭

〔十七〕

耳垢取

〔廿〕

釜形之蟹

〔廿四〕

磨猫之蚤取

〔廿〕

中之卷

○ ○  
浮世袋廿五  
燈籠踊廿七

宗奈打祖丸	三重箱	大津世	浮世之	女行燈	名古屋
祇良出父	線鼓	繪袋	編笠	五	や
之の庭小	弓硯	佛再	塗笠		古
蚊籠母	古蓋	像考	七		像
屋合	之物	十三	九		帶
廿三	文				二
廿五	樣				
廿二	語	十五			
廿九	十九				

○初雪之句はつゆきのく [廿六]

火	爐	附地	火	爐
提燈	四			二
笠の下に布を垂る	六			
桔梗笠	八			
魚板古製	十			
淺葱椀	十二			
紫革足袋	十六			
二足三文	十四			
題目踊	三十			
游・無木	三十一			
長崎柱餅・井幸木	三十二			
馬・きうり牛	三十三			
ながさきのはしらもち				